【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第１区分
【発行日】平成30年2月1日(2018.2.1)

【公表番号】特表2014-516249(P2014-516249A)
【公表日】平成26年7月10日(2014.7.10)
【年通号数】公開・登録公報2014-037
【出願番号】特願2014-503902(P2014-503902)
【国際特許分類】
Ａ２３Ｄ　 7/00　　(2006.01)
Ｂ０１Ｆ　17/18　　(2006.01)
Ｂ０１Ｊ　13/00　　(2006.01)
Ｂ０１Ｆ　17/52　　(2006.01)
Ｂ０１Ｆ　17/14　　(2006.01)
Ｂ０１Ｆ　17/56　　(2006.01)
Ｂ０１Ｆ　17/42　　(2006.01)
Ｂ０１Ｆ　17/38　　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　 2/42　　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　33/10　　(2016.01)
【ＦＩ】
Ａ２３Ｄ　 7/00　　５０４
Ｂ０１Ｆ　17/18
Ｂ０１Ｊ　13/00　　Ａ
Ｂ０１Ｆ　17/52
Ｂ０１Ｆ　17/14
Ｂ０１Ｆ　17/56
Ｂ０１Ｆ　17/42
Ｂ０１Ｆ　17/38
Ａ２３Ｌ　 2/00　　Ｎ
Ａ２３Ｌ　 1/30　　Ａ
Ａ２３Ｌ　 1/30　　Ｂ
Ａ２３Ｌ　 1/30　　Ｚ

【誤訳訂正書】
【提出日】平成29年12月11日(2017.12.11)
【誤訳訂正１】
【訂正対象書類名】特許請求の範囲
【訂正対象項目名】全文
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ａ）多価不飽和脂肪酸を含む油；
ｂ）乳化剤；
ｃ）水；
ｄ）金属キレート剤；および
ｅ）酸化防止剤；
を含む水中油型乳剤であって、
前記金属キレート剤が、クエン酸を含み、
前記酸化防止剤が、アスコルビン酸ナトリウム、トコフェロール、ならびにフェノール

誘導体、カルノシン酸、リポ酸、タウリン、芳香族カルボン酸、芳香族カルボン酸の塩（アスコルビン酸ナトリウムを含まない）、およびそれらの組合せからなる群から選択される他の酸化防止剤を含み、

前記金属キレート剤が前記乳剤の４重量％～１８重量％の量だけ存在し、かつ前記酸化防止剤が前記乳剤の２重量％～２０重量％の量だけ存在し、

前記乳剤の２重量％～６重量％のアスコルビン酸ナトリウムおよび前記乳剤の０．０５重量％～０．５重量％のトコフェロールを含む、水中油型乳剤。

【請求項２】

金属キレート剤と酸化防止剤との比率が１：３～３：１である、請求項１に記載の乳剤。

【請求項３】

前記金属キレート剤が、エチレンジアミン四酢酸（ＥＤＴＡ）、シトレート、酒石酸、アスコルビン酸、リン酸、ポリフェノール、ピロホスフェート、ヘキサメタホスフェート、ホエー、カゼインおよびそれらの組合せからなる群から選択される、請求項１に記載の乳剤。

【請求項４】

前記多価不飽和脂肪酸が、α－リノレン酸、ω－３エイコサペンタエン酸、ω－３ドコサペンタエン酸、ω－３ドコサヘキサエン酸、γ－リノレン酸、リノール酸、アラキドン酸、ω－６ドコサペンタエン酸、およびそれらの組合せからなる群から選択される、請求項１に記載の乳剤。

【請求項５】

前記多価不飽和脂肪酸を含む油が前記乳剤の５重量％～４０重量％の濃度で存在する、請求項１に記載の乳剤。

【請求項６】

前記多価不飽和脂肪酸の濃度が乳剤１グラム当たり５０ｍｇ～８０ｍｇである、請求項１に記載の乳剤。

【請求項７】

前記水が前記乳剤の２０重量％～７５重量％の濃度で存在する、請求項１に記載の乳剤。

【請求項８】

前記乳化剤が、アカシアゴム、変性アカシアゴム、レシチン、寒天、ガッチ・ゴム、変性ガッチ・ゴム、ペクチン、カラギナン、キサンタンガム、変性食物デンプン、変性アルギナート、ポリオキシエチレンソルビタン、脂肪アルコール、およびそれらの組合せからなる群から選択される、請求項１に記載の乳剤。

【請求項９】

前記乳化剤が前記乳剤の５重量％～４０重量％の濃度で存在する、請求項１に記載の乳剤。

【請求項１０】

請求項１～９のいずれか一項に記載の乳剤を含む飲料。

【請求項１１】

ａ）水と乳化剤とを混ぜ合わせて水性混合物を生じさせるステップと；

ｂ）混合しながら前記水性混合物に多価不飽和脂肪酸を加えて水中油型乳剤を生じさせるステップと；

ｃ）前記水中油型乳剤に金属キレート剤および酸化防止剤を加えるステップと

を含む、水中油型乳剤の製造方法であって、

前記金属キレート剤が、クエン酸を含み、

前記酸化防止剤が、アスコルビン酸ナトリウム、トコフェロール、ならびにフェノール誘導体、カルノシン酸、リポ酸、タウリン、芳香族カルボン酸、芳香族カルボン酸の塩（アスコルビン酸ナトリウムを含まない）、およびそれらの組合せからなる群から選択される他の酸化防止剤を含み、

前記金属キレート剤が前記乳剤の４重量％～１８重量％の量だけ存在し、かつ前記酸化防止剤が前記乳剤の２重量％～２０重量％の量だけ存在し、

前記乳剤が、前記乳剤の２重量％～６重量％のアスコルビン酸ナトリウムおよび前記乳剤の０．０５重量％～０．５重量％のトコフェロールを含む、水中油型乳剤の製造方法。

【誤訳訂正２】
【訂正対象書類名】明細書
【訂正対象項目名】０１２５
【訂正方法】変更
【訂正の内容】
【０１２５】

[00125]図１は、本発明の乳剤を製造するための１つの方法を例示する工程図である。図１に示すように、変性アカシアゴムを、インライン（Ｉｎ－ｌｉｎｅ）Ｓｉｌｖｅｒｓｏｎミキサー中で、ソルビン酸カリウム、アスコルビン酸ナトリウムおよび水中に８５％のクエン酸を含むものと混合して、水溶性成分を分散させた。混合は、変性アカシアゴムを分散させるのに十分な速度であるべきである。窒素雰囲気下において少なくとも４時間（または一晩）、成分が水中で水和するようにさせる。水和させた後、窒素雰囲気下でゆっくり混合しながら、クエン酸を加えてｐＨを３．８～３．９に調節する。トコフェロール、Ｍａｒｔｅｋ　Ｍａｓｋｅｒ（商標）、および他の油溶性成分を加え、窒素雰囲気および高剪断条件下で５分間、２６５０ｒｐｍで混合する。その後ＤＨＡ　Ｓ油を加え、調製物を窒素雰囲気において２６５０ｒｐｍで５分間混合した。次いでｐＨをｐＨ４．０に調節し、第１段階の圧力を３３０バール、第２段階の圧力を５０バールにして２回通して調製物を均質化した。容器に入れる前に、乳剤を４℃で窒素雰囲気下において保存した。その後、乳剤をエポキシ－フェノールのライナーの付いたアルミニウム瓶に窒素フラッシュ包装（ｎｉｔｒｏｇｅｎ　ｆｌａｓｈ　ｐａｃｋａｇｅｄ）した。